

**ケース・カンファレンス
スーパーバイザー養成講座
事業報告**

同志社大学社会学部社会福祉学科
野村裕美

4つの事業

- ・ ケース・カンファレンス関連講座
 - 連続講座
 - 特別講座
 - 定例講座
- ・ スーパーバイザー養成講座
- ・ 学生向け講座
- ・ 現任者・学生・市民による合同講演会企画

2

1. ケース・カンファレンス 連続講座

- ・ **第一弾「援助を深める事例研究の意義と方法」**
 - 講師：岩間伸之先生（大阪市立大学准教授）
 - 第一回理論編（2008年3月8日）
 - 第二回実践編（2008年5月31日）
- ・ **第二弾「基礎から学ぶ気づきの事例検討会」**
 - 講師：渡部律子先生（関西学院大学教授）
 - 第一回理論編（2008年12月20日）
 - 第二回実践編（2009年3月21日）

3

第一弾「援助を深める事例研究の意義と方法」
(理論編 参加者98名)



4



5

第一弾「援助を深める事例研究の意義と方法」
(実践編 参加者20名)



6

第二弾「基礎から学ぶ気づきの事例検討会」
(理論編 参加者103名)



7

第二弾「基礎から学ぶ気づきの事例検討会」
(実践編 参加者27名)



8

2. ケース・カンファレンス **特別講座**

・「ケース教材を用いた学びの共同体作り
ーケースメソッド教授法の理論と実際を学ぶー」

講師：竹内伸一先生
(株式会社ケースメソッド教育研究所代表
取締役・慶應義塾大学大学院経営管理研
究科非常勤講師)

(2009年7月5日)

9

「ケース教材を用いた学びの共同体作り
ーケースメソッド教授法の理論と実際を学ぶー」
(参加者43名)



10

3. ケース・カンファレンス 定例講座

- ・ 第一弾「社会福祉実習 現場指導者を支援するための実習プログラミングワークショップーさまざまな学生のニーズにこたえるためにー」
講師：空閑浩人（同志社大学）
生田一朗先生（京都府社会福祉協議会）
(2009年7月25日)
- ・ 第二弾「障害児通園施設職場内研修 多職種が働く施設におけるケース教材を用いた討論研修」
講師：野村裕美（同志社大学）
高木恵子先生（洛西愛育園）
(2009年7月29日)
- ・ 第三弾「医療ソーシャルワーカーの自己覚知研修 ケース教材を用いた討論を用いて」
講師：野村裕美（同志社大学）
山本みどり先生（西陣病院）
(2009年11月9日)

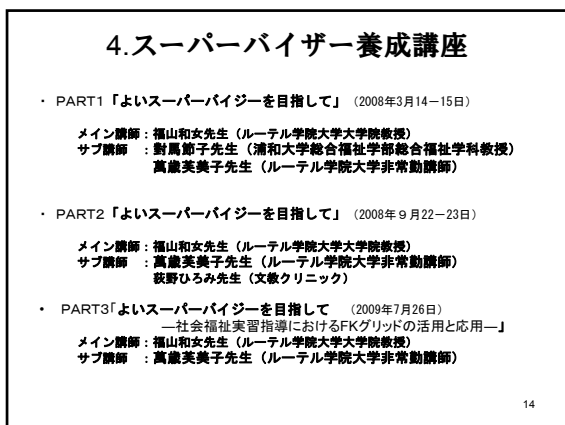
11

第一弾
「社会福祉実習 現場指導者を支援するための実習プログラミングワークショップーさまざまな学生のニーズにこたえるためにー」
(参加者10名)



12













スーパーバイザー養成講座 PART 3
(12名参加)



19



20

5.学生向け講座
(当事者による事例を用いた研修)

「いのちの講座
—いのちに向き合う2日間— 」

講師：鈴木中人先生
(特定非営利法人いのちをバトンタッチする会代表)
1日目：2009年7月12日
2日目：2009年7月19日

21

学生向け講座
「いのちの講座—いのちに向き合う2日間—
 (参加者17名)



22

6.現任者・学生・市民による合同講演会
「ゴールドリボンキャンペーン2009
in kyoto
 (2009年2月28日)

テーマ：呼吸—いき—をあわせて、はじめよう、今私たちにできること
 基調講演：「いのちをみつめる—臨床の現場から—」
 講師 富田清一先生(国立大学法人大阪大学総長)

シンポジウム：「病気の子どもを支える—小児がんを中心に—」
 コーディネーター 野村裕典 (同志社大学)
 シンポジスト 鈴木中人 (特定非営利活動法人いのちをパトナッ
 ずする会)
 熊谷嘉利子 (日本クリニクラウン協会)
 清田悠代 (sibling support—兄弟支援—たねまき
 プロジェクト)
 小俣智子 (小児がんネットワークNプロジェクト・
 武蔵野大学)

23

ゴールドリボンキャンペーン2009
in kyoto
 (参加者170名、本学と武蔵野大学の学生ボランティア50名)



24



受講前に本研修に対し期待していたこと
(受講者アンケートから)

- ・タイトル・講師にひかれて
- ・具体的手順(進め方)が知りたい
- ・反復学習および習熟度の確認の機会としたい
- ・理論を学びたい
- ・研究・教育実践のための参考にしたい
- ・指導者としてのスキルアップ
- ・交流の場を得たい
- ・今、困っていることに示唆・助言がほしい

26

今後の研修会に期待すること

- 期待する理念・方向性
(現任者参画型・利用者への視点・ネットワーク作りの場・人材育成について大学と現場が議論する場)
- 参加者の層の多様性
- さまざまな方法・研究のスタイルを知る場・自分にあう方法を選択する場
- 現任訓練を受ける場

→継続的な場作りと
魅力ある内部からの発信

27
